

# アメリカで活躍する日系アメリカ人による 『地域の経済発展』と『リーダーシップ』

## 『日系アメリカ人リーダー招へいプログラム』について

本プログラムは、アメリカの日系人社会と日本の相互理解を促進することを目的として、外務省が主催、米日カウンシルがプログラムの計画と運営を行っています。第14回目となる2014年は、3月8日から15日までの8日間、日系アメリカ人代表団の10名が、アイリーン・ヒラノ・イノウエ氏引率のもと来日します。一行は、東京や福岡を訪れ、政官民の幅広い有識者との交流や

文化施設の視察を行います。アメリカへの移民は、明治時代に始まり、福岡から移民した人々の子孫を含め、いま日系人は全米で約76万人となっています(2010年国勢調査)。第2次世界大戦中のアメリカ政府による強制収容の試練を克服し、各地に根を下ろした世代を経て、3世、4世、5世は政治、経済、教育など多分野で活躍するに当たっています。



日時：2014年3月10日(月) 14:00-15:30

会場：福岡アメリカン・センター

# はじめに

日系アメリカ人リーダー招へいプログラム (JALD) は、アメリカの日系人社会と日本との相互理解と交流を深めることを目的として、2000年に外務省により開始されました。国際交流基金日米センターでは、来日した日系アメリカ人をパネリストとして迎え、毎年異なるテーマでセミナーや講演会等を開催しています。この度、本招へいプログラムは12回目を迎え、2014年3月10日に福岡市にて、アメリカ国内のさまざまな地域で活躍する日系アメリカ人の移民の歴史と経験にもとづいた『地域の経

済発展』と『リーダーシップ』をテーマにセミナーを開催しました。本報告書は同セミナーでの発表やディスカッション、質疑応答の様、プログラム参加者の感想をまとめたものです。特にパネリストの発表については、私たちが日米関係の歴史や現状、将来展望を考えるうえで多くの示唆に富む内容であるかと思料します。同セミナーが福岡、ひいては九州・中国地方とアメリカとの協力関係を、更に発展させるきっかけとなりえたことを願いつつ、この小冊子を皆さまにお届けします。

## プログラム内容

日時： 2014年3月10日(月) 14:00-15:30

会場： 福岡アメリカン・センター

- プログラム： 14:00 開会挨拶
- 14:05 ビデオ上映「日系アメリカ人の歴史」
- 14:15 発表  
キャリー・オキナガ “Hawaii Connections”  
ケイコ・オーラル “Japanese Americans in US Politics”  
ブラッド・ミヤケ “City of Bellevue USA”
- 14:45 ディスカッション・質疑応答
- 15:30 閉会



マックロード在福岡米国領事館領事のご挨拶



アイリーン・イノウエ米日カウンシル会長のご挨拶



キャリー・オキナガ氏の発表



ケイコ・オーラル氏の発表



ブラッド・ミヤケ氏の発表



セミナー会場の様子

ご挨拶：

マーガレット・マックロード

在福岡米国領事館広報担当領事兼福岡アメリカンセンター館長

アメリカ合衆国は、サラダボウルやモザイクという言葉で表現されるように、多民族で構成される国家であり、アメリカ人のルーツは世界中に亘ります。日本からも多くの方がアメリカへ移住しましたが、その子孫である日系アメリカ人たちは、ダニエル・イノウエ上院議員に代表されるように、今日のアメリカ社会で政治、経済等の幅広い分野で活躍をしています。

ご挨拶：

アイリーン・ヒラノ・イノウエ

米日カウンシル会長

米日カウンシルおよび訪日団を代表し、本日皆さんにお会いできたことを大変光栄に思っております。

私の父方の祖父が福岡県出身で、1900年代初めに米国へ移住しました。そして私の亡き夫、故イノウエ上院議員も福岡県八女市にルーツを持ち、彼の祖父母は砂糖プランテーションで働くためにハワイ州へ移住しました。

また、今回来日した訪日団の中で、他にも福岡にルーツを持っている者が2名おり、この度私たちは福岡を訪問できたことを大変嬉しく思っています。

米日カウンシルは、日系アメリカ人により創設された非営利の組織で、ワシントンDCに本部を置いています。

カウンシルのミッションは、日米間の政府、企業、市民レベルにおいて強固な人と人との関係を築くことです。例えば、両国の様々な分野のリーダーと協働した教育プログラム、リーダー同士のネットワーク強化を図る交流プログラムの実施、NPO・NGO団体および社会起業家への支援など、様々な活動を行っています。

本日のセミナーでは、パネリストの皆様のプレゼンテーションの後に質疑応答の時間もありますので、会場の皆様からぜひ活発に質問していただき、このセミナーを有意義なものとしていただきたいと思います。

そしてその様々な活動の一環が、本プログラムの日系アメリカ人リーダー招へいプログラム (JALD) であり、今回は14年目の実施となります。これまでに本プログラムに参加した日系アメリカ人の数はのべ166名にのぼります。訪日時には、総理大臣や外務大臣、企業のリーダー等とお会いし、意見交換会やネットワーク強化をする機会をいただいています。

幸いなことに、私は本プログラム開始から毎年代表団を率いて来日しております。2011年のプログラム実施中の3月11日には、東京滞在時に東日本大震災が発生しました。翌年には被災地の復興を目的に仙台を訪問し、昨年は福島を訪問しました。

3月11日の震災後、米日カウンシルでは震災復興支援基金を設置し、復旧・復興の最前線で活動する日本のNPO団体に対し支援を行ってまいりました。JALD参加者や米日カウンシルの関係者は東北地域を幾度となく訪問し、現場主義の支援策をコミュニティの人々と共に取り組んできました。

本日の講演会は訪日グループの代表者3名からお話をさせていただきます。会場いっぱいになるほどの皆様方においていただき、大変嬉しく思っております。



モデレーター：アイリーン・ヒラノ・イノウエ (ワシントンDC) 米日カウンシル会長

全米日系人博物館の館長を長く勤め、2009年4月以降は同月発足した米日カウンシルの会長として、「在米日系人リーダー招聘」及び「在米日系人と在米公館長との会合」といった我が国の在米日系人との政策的関係強化事業において日系人側で中心的役割を果たしている。在米日系人リーダー招聘では、米側コーディネーターとして毎回、一行を引率して訪日。13年にわたるT.H.E.クリニック(非営利の多民族系診療所)勤務を含め、30年以上にわたり、米国全土の多文化コミュニティにおけるNPO運営、コミュニティにおける教育活動、広報活動に携わる。1993年アジア太平洋女性ネットワーク生涯達成賞(Asian Pacific Lifetime Achievement Award)、1994年南カリフォルニア大学学友会賞、1996年ロサンゼルス女性基金指導者賞、同年アジア太平洋アメリカン・ヘリテージ週間市長賞等、受賞多数。2009年4月、日系人社会の結束強化や日系人と日本人との関係強化における長年の功績により外務大臣表彰。南カリフォルニア大学にて学士号及び修士号(いずれも公共政策学)を取得。1988年~2008年6月、全米日系人博物館館長、2008年7月~2009年6月同博物館執行顧問、2009年4月より現職。先祖ゆかりの県は、父方が福岡、母方が東京。

## 発表要旨：

### キャリア・オキナガ ファースト・ハワイアン・バンク法務担当上席副社長

アロハ。本日は発表できることを大変光栄に思っています。私は日系三世です。ハワイの日系人の多くが九州出身であるように、私の父は福岡、そして母は熊本にルーツを持ちます。1900年初頭、ハワイの人口の40%以上が日系アメリカ人でした。しかし、2010年になるとその割合は13.6%まで落ち、現在ではフィリピン系アメリカ人がアジア系として一番人口が多くなっています。そんな中、ハワイで育った私がとても誇りに思っているのが、ハワイ出身の多くの日系アメリカ人がさまざまな分野で活躍していることです。

まず昨年亡くなられた故イノウエ上院議員をはじめとして、イノウエ議員と同時期に議員を務めたスパーク・マツナガ上院議員、米国内初のアジア系アメリカ人知事となったジョージ・アリヨシ元知事が挙げられます。女性の指導者にも素晴らしい方々がいます。パッシー・ミンクさん（1960年代アメリカの下院議員）、日本生まれのメイジー・ヒロノ上院議員（現在アジア系唯一の上院議員）、日系四世のコリーン・ハナブサ下院議員など。また、エリック・シンセキ元陸軍参謀総長、野球選手のウォーリー・ヨナミネ



パネリスト：

**キャリア・オキナガ**（ハワイ州ホノルル）

ファースト・ハワイアン・バンク上席副社長、顧問、事業部長

ハワイ州で最大かつ最古の金融機関であるファースト・ハワイアン・バンクの顧問、事業部長。2005年から2011年までホノルル市法務局長として、80人を超える職員と900万ドル以上の予算を有する部署を監督。また、ホノルル郡・ホノルル市初の高架式固定線路大量輸送システムの計画、運営、保全、拡充を担当するホノルルの半自治政府機関であるホノルル高速輸送公社（Honolulu Authority for Rapid Transportation: HART）の理事の1人である。カリフォルニア州ポノマ大学で政治学・公共政策学の学士号と、現在客員理事を務めているスタンフォード大学法科大学院で法学博士号を取得した。先祖ゆかりの県は、父方が福岡、母方が熊本。

## 発表要旨：

### ケイコ・オーラル マサチューセッツ州下院議員

こんにちは。本日はアメリカ政治における日系人の役割についてお話をさせていただきます。私はマサチューセッツ州ボストン市から来ました。ボストンは米国東海岸に位置し、人口約660万人の州です。中間層の平均収入は約5万5000ドル、州の予算は340億ドルほどです。また、ハーバード大学、マサチューセッツ工科大学、私が卒業したスミスカレッジといった有名大学があり、スポーツも盛んです。

私は日系アメリカ人として政治に関わっていますが、ルーツは沖縄です。私の父方の祖父は1910年頃にハワイへ渡りサトウキビ畑で働きました。祖母は同じく沖縄出身です。二人の次男として生まれた私の父は、兄弟の中で唯一大学へ進学し、ドイツ系アイルランド人の母と結婚しました。私は5人兄弟で、オハイオ州

さん等々、その他の分野でも多くの日系人が活躍しています。そんなハワイですが、実はハワイが初めて姉妹都市提携を結んだのが福岡市でした。1981年のアリヨシ知事の時代に提携が結ばれ、以後県人会の協力を得てホームステイ・JETプログラムといった人的交流等の活動を続けてきています。東日本大震災が発生した時には、国外の自然災害に対する寄付金としては最高額の約900万ドルが集まり、このことから日本とハワイの関係は深く結びついていることが分かると思います。

また、ハワイと日本を結ぶ重要な産業のひとつが観光業です。観光業は、ハワイ経済の20%を占めており、2013年には820万人以上の人々がハワイを訪れ、145億ドル規模の産業となっています。日本からの観光客は全体の18.5%を占める152万人に上り、ハワイのGDPの3.5%に当たる25億ドルの経済効果がありました。日本とハワイを結ぶ航空便は1日に12本ほどあります。ハワイは今後も観光客有誘致に向けて様々な取り組みを行って参ります。皆さん、どうぞハワイにおいでください、お待ちしております。ありがとうございました。

シンシナティで育ちました。幸いに、両親が勤勉の大切さを説いてくれ、スミスカレッジへ進学し、そこで夫のノーマンと出会いました。私達の間には二人の子供がいます。

私はもともと地方政治や草の根運動に携わっていた関係で、自分のコミュニティの主張や訴えを声にしていきたいと考え、2011年に州の下院議員に立候補しました。しかし、選挙活動は大変でした。努力とお金が必要ですし、諦めないことも大切でした。政治家としての私を支えてくれているのは家族です。選挙の時には、私の夫はキャンペーンマネージャーを務め、子どもたちも大きな力となってくれました。私のサポートチームも非常に重要です。

私はアジア系アメリカ人として初のマサチューセッツ州下院議員

であり、日系アメリカ人として初の州の議員となりました。私は共和党所属ですので、民主党の勢力が強いマサチューセッツ州での選出には非常に難しい面があります。しかし、私は、政治には多様な意見が反映されるべきであると考えており、両党の考えを尊重することに務めています。議員となつてからは、私の日系アメリカ人という背景も手伝ってマサチューセッツ州で日本コミュニティだけでなく、他のアジアコミュニティとの関わりが多くなっています。



パネリスト：

**ケイコ・オーラル**（マサチューセッツ州ボストン）

マサチューセッツ州下院議員

マサチューセッツ州第12ピストロ地区選出の州議会議員。2011年に州議会議員に選出され、労働・労働力開発合同委員会筆頭委員及び州管理・規制監視委員を務める。また、司法合同委員会と公衆衛生合同委員会に所属している。マサチューセッツ州下院議会における初の日系人議員。クランベリー産業の経済発展促進及びマサチューセッツ州におけるビジネス拡大に焦点を当てている。州議会議員になる前は、公立学校で長年教鞭をとり、地域での政治活動や草の根運動を主導した。スミス大学で学士号を取得した。先祖のゆかりの県は、沖縄。

## 発表要旨：

### ブラッド・ミヤケ ワシントン州ベルビュー市助役代行

皆さん、こんにちは。私は日系三世で、ワシントン州ベルビュー市から参りました。本日は私の家族、日系アメリカ人としての経験と公務員としての活動、そしてベルビュー市の経済開発についてお話をさせていただきます。

私の父方の祖父母は1900年代に広島県からカリフォルニア州サクラメントに、母方の祖父母は長野県からワシントン州シアトルへ移り住みました。私の両親は結婚後、2男3女をもうけ、父は自動車と建設業、母は会計士をしていました。私たち兄弟は白人あるいはアフリカ系アメリカ人の多い地域で育ったため、常にマイノリティという意識を持っていました。しかし、小さい頃から日本人としての誇りを持つよう両親に育てられました。当時、日本の優れた電化製品や自動車が業界を席卷していく様子をととても誇らしく思っていました。

次に、ベルビュー市職員としての活動ですが、過去には予算管理責任者として数100万ドルの運営予算の編成とその執行監督や、公共事業の担当次長を務めてきました。現在は経済開発を含むベルビュー市全体の行政を指揮する助役代行を務めています。



パネリスト：

**ブラッド・ミヤケ**（ワシントン州ベルビュー）

ワシントン州ベルビュー市助役代行

2013年5月からベルビュー市助役代行。2006年から2013年まで同市助役補を務め、この間、同市の予算手続の整備、公共事業部の初の専門認定の取得、市の行政運営プロセスの改善に取り組んだ。現在は2年間分の予算13億ドル、1200を超える役職、警察、消防署、公的事業、経済発展、財政、人事、情報技術、交通、公益事業を含む市のすべての事業を監督している。ミヤケ氏は、ワシントン大学で経営学の学士号を取得した。先祖ゆかりの県は、広島。

**(1) 質問:**日本人とアメリカ人はそれぞれ文化的に違う背景を持つと聞いたことがあります。たとえばアメリカ人はストレートにものを言うのに対し、私たち日本人は行間を読む文化である、相手の言ったことを考えて想像する文化であるということです。皆さんにとって、その文化の違いはどう映るのか。そして、日本人とアメリカ人がお互いの文化を理解するためにはどのようなことをしていけばよいのでしょうか。

**回答:** (トウコ・セリタ) 確かにアメリカ人は思ったことをはっきり言う傾向にあると思います。その傾向を知るうえでアメリカ人がどういう背景を持っているのかということを知りたい一方、アメリカ人にも日本人の文化的な、例えばものをはっきり言わないとか、そういった文化的な違いを理解すべきだと思います。そのためには、双方に教育をする、あるいは知りあうことが重要だと思います。

**(2) 質問:**オーラルさんに質問です。日本語のラストネームであることは、アメリカ人にとって選挙で選ばれるのは難しいでしょうか。

**回答:** (ケイコ・オーラル) 私はファーストネームが日本名です。ですから現場ではケイコやカイコとか呼ばれるときもあり、政治活動をするうえで苦勞する時があります。そのため、私がどんな人物なのか理解してもらえよう、私自身が努力することが必要であり、人間性を分かってもらえることが重要だと思っています。

**(3) 質問:**私は中学・高校時代をカリフォルニアで過ごし、現在日本の大学に通っている大学生です。日本では海外で育った人のことを帰国子女と呼びますが、私たち帰国子女も皆さんと同じように2つの文化的背景を持っていると感じております。私たちは日米関係でどういう役割が果たせるのか、お考えをお聞かせいただければと思います。

**回答:** (ヨリコ・キシモト) アメリカと日本の相互理解を深める点でわれわれは非常に重要な役割を果たしています。政治やビジネス、どの分野においてもそうです。そしてとても重要なのは、自分たちのことをふたつの文化の狭間だと思わないで、ふたつの文化のいいところを持った人間だと思ことです。アメリカは多民族国家であり、また日本は多様性を必要としている国であり、あなたのような方こそが両国にとっての未来なのです。

**(4) 質問:**皆さんが考えるリーダーシップとは何か、また、リーダーシップに大切なものは何か、という2点を教えていただけたらと思います。

**回答:** (ブラッド・ミヤケ) リーダーには、誠実さがなくてはなりません。自分の価値観を大事にし、信念を持つことだと思います。

教育や経験も重要です。働く際は一カ所に留まらず、様々な場で経験を積み、またキャリアを積む中で色々と指導してくれるメンターのような人につくことも大切だと思います。

**回答:** (デレク・オオクボ) 私が今まで働いたなかで感じた真のリーダーというのは、いい親であるということと変わらないと思うのです。

人気がなくとも構わない。親というのは、子どもに甘くしていると問題が出てきますよね。リーダーである場合も同様で、人気取りばかりではなく、ノーといえる勇気があるということ。

人が気に入らないようなことがあっても、正しいと思ったらやり通すこと。そして、コミュニティの利益を大切に思い、物事を前に進めるということ。しかしそれをやるためには、勇気が必要です。勇気というのは、反対する人たちの前で自分の信じることをはっきりと主張することです。

そして決定を下す時には、自分の手柄にするのではなく、より広く、コミュニティのためになることを考えての決断だということを示せるのが、真のリーダーだと思います。

あと、リーダーはいつでも答えを知っているわけではありません。それを自覚し、分からない場合はどういう質問をすべきかを考え、周りに助言を求め答えを導き出すことができる人が重要だと思です。

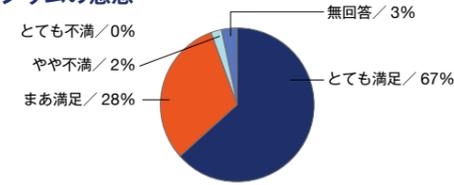
**(5) 質問:**アイリーンさんにお尋ねします。残念ながらダニエル・イノウエさんは逝去されましたが、今後の日米関係について、ダニエルさんが遺した思いなど私達に何か共有できるものがありましたら教えてください。

**回答:** (アイリーン・ヒラノ) イノウエ上院議員は常に日系人であることを誇りに思い、日米関係は非常に重要だという信念を持ち続けていました。そして政府の様々なレベルにおいて、日米関係構築のために活動をして参りました。

そのひとつの目的として、米日カウンスルが設立されました。また、長期的な視点でもさまざまなレベルでの関係を構築していくことが重要であり、お互いを理解するためには強い基盤が不可欠だということを常に考えておりました。しっかりした基盤があれば、どこかで摩擦が生じて、必ず解決できると考えていたのです。

そういう意味では、私達はその遺志を引き継いでいきますし、日本の人々も同じように活動を続けて下さることを願っています。

Q: シンポジウムの感想



会場の感想

- プレゼンターの方々をはじめ皆様がとてもフレンドリーな人柄であることが伝わってきて、楽しくお話を聞かせていただきました。アメリカで活躍される中で、それぞれの出自、異文化体験、政治・経済界で果たさなければならない役割など、大変な事もあると思いますが、努力と前向きなお人柄で乗り越えてこられたのだと感じ、本日講演を聞きに来たひとりひとりの市民が勇気づけられるお話だったと思います。
- とてもいいセミナーでした。文化を越えてリーダーの本質を考える機会になりました。
- これまで学ぶことがなかった日系アメリカ人の歴史を知ることができ勉強になりました。ニュースの中で出てくる日米関係とその背景をもっと知っていきたく強く思いました
- とても感動しました。たえない努力と情熱によって、日系アメリカ人の方々がアメリカ社会で活躍されていることが分かりました。
- 学生の方が多く参加され、積極的に質問をされているのが印象的でした。
- 海外で仕事をしたいと考えているので、これからの日米関係を考えながら頑張っていきたいと思いました。
- 渡米された先人の長年にわたる努力と子孫の方々のアメリカ社会における活動、貢献を日本人として誇りに感じております。
- この種の講演会は、何回も行ってください。活気に満ちていて面白い。素晴らしい内容で、久しぶりに大満足です。
- アメリカで活躍する日系アメリカ人の方々の価値観が良くわかりました。また、日系アメリカ人のリーダーシップそのものについて理解を深めることができました。



**エリサ・ドウゾノ**  
(Portland, Oregon)  
ミラー・ナッシュ法律事務所パートナー  
ビジネス訴訟と行政法を専門とする弁護士  
先祖ゆかりの県は、父方が福岡、岡山、母方が徳島、千葉



**ヨリコ・キシモト**  
(Palo Alto, California)  
前バルアルト市長、ミッドペニンシュラ地域オープン・スペース・ディストリクト課長  
技術分野のパートナーシップ構築や技術譲渡の国際交渉に関わる  
先祖ゆかりの県は、父方が大阪、母方が滋賀



**トウコ・セリタ**  
(Queens, New York)  
ニューヨーク州クイーンズ郡最高裁判事代行  
ニューヨーク州で初の日系人判事 人身売買に関する司法専門家の第一人者  
先祖ゆかりの県は北海道



**ゲイリー・ヤマシロヤ**  
(Chicago, Illinois)  
シカゴ市警刑事部長  
シカゴ市警に27年間勤務 日本政府との刑事司法と法律分野に関する協力活動等も実施  
先祖ゆかりの県は、父方が山口、母方が広島



**レオナ・ヒラオカ**  
(Washington DC)  
ポインツ・オブ・ライト副代表、広報担当  
世界最大規模のボランティア団体にてパートナー構築に関する広報戦略等を策定  
先祖ゆかりの県は、父方が広島、熊本、母方が山口



**デレク・オオクボ**  
(Denver, Colorado)  
デンバー市人権・コミュニティ・パートナーシップ局長市長室、自治体各部署、地元コミュニティの掛け橋として、計18の委員会を監督  
先祖ゆかりの県は、父方が富山、母方が広島



**キース・ウォルターズ**  
(Santa Monica, California)  
陸軍中佐、RAND 研究所陸軍研究フェロー  
東アジアにおける米国の戦略と政策や陸軍の概念と軍体制の発展を担当  
先祖ゆかりの県は、宮城、栃木